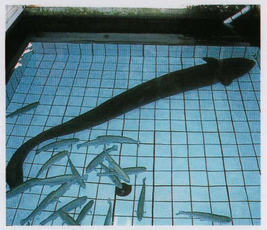
指宿市文化財マップ

Map of Cultural assets in Ibusuki city



1.池田湖オオウナギ群棲地

昭和44年11年3日　市指定

池田湖は、約5500年前の噴火によってできたカルデラ湖で、九州一広いこの湖には、オオウナギが棲息しています。これまでに発見された最も大きなものは、体長1.8m、体重20kgほどもあったといわれています。

2.刻み地蔵

昭和46年3月20日　市指定

指宿市の「磨崖仏」は、池田湖のほとりの池崎にある洞窟の中の壁面に彫られています。この「磨崖仏」には、次のような伝説が残っています。「清見城の領主池田信濃守が知覧の佐多伯書守親久に攻められた時、池田信濃守の家老の息子は城主夫人や姫を連れ出し逃げました。そして、この洞窟で戦死した一族のために食事もとらず仏像を彫り、完成すると同時に餓死した」というものです。この伝説から磨崖仏は「餓死御前」とも呼ばれています。

3.吉永のモイヤマ

昭和51年3月8日　市指定

吉永のモイヤマは指宿市池田仮屋にあります。吉永のモイヤマはイチイガシを神木としています。うっそうと茂るイチイガシの樹木はどことなく神秘的な感じがします。

4.菅山の方柱板碑

昭和51年3月8日　市指定

この方柱板碑は、指宿市池田仮屋菅山にあります。碑文から、天文18年(西暦1549年)に建立され、碑の正面に直径5cmの円相が彫られ、その中に「心」の字が刻まれています。石材には山川石（溶結凝灰岩）が使われています。

5.猿の子踊り

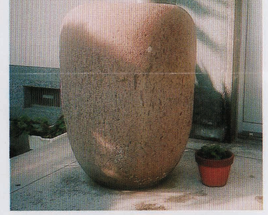
昭和48年5月1日　市指定

今からおよそ260年前、延享年間に今和泉島津家領主島津忠郷が日向から猿使いを招いて、猿の習性を面白おかしくふりつけ、春秋2回、領民の労を慰めたと伝えられています。その後猿は山の神、田の神の使いとして考えられたことから豊作のお祭り行事として猿の子踊りが伝えられるようになりました。

6.今和泉島津家墓地

昭和57年11月16日　市指定

今和泉島津家墓地は、指宿市岩本麓下にあります。今和泉島津家墓地には、初代の忠郷から6代目の忠冬までの一族の五輪塔や宝篋印塔、家紋型の墓が14基あり、その周りは100基余りの灯ろうで囲まれています。



7.今和泉島津家伝来の手水鉢

平成6年3月2日　市指定

今和泉島津家の館は、今和泉郷岩本村におかれました。その館跡地は、現在の指宿市立今和泉小学校になります。この手水鉢は、高さ93cm、水を入れる鉢の内径30cm、外径58cm、底の直径36cm、胴回りの最大210cmで均整のとれた形をしています。製作者名・製作年は不明です。

8.方柱板碑ほか民俗神群

平成元年7月10日　市指定

この方柱板碑は、指宿市新西方渡瀬の公民館敷地内にあり、天文14年（西暦1545年）に建立されたものです。板碑の正面には不動明王、釋迦牟尼佛、摩利支尊天、文殊師利菩薩、青面金剛の5体の仏の名が刻まれています。ここには、この方柱板碑の他に明和7年（西暦1770年）と天明4年（西暦1784年）に建てられた庚申塔が2基、明治24年の早馬どん、年代が不明の田の神2基が残っています。

9.久保庵上の方柱板碑

昭和51年3月8日　市指定

この方柱板碑は、指宿市西方久保の墓地内にあり、天文16年（西暦1547年）に建立されたものです。当時、仏教が領主層の間に広まっていたことがうかがえる銘文が刻まれています。この碑文にも「湯豊宿」の文字が書かれています。

10.木造聖観音立像三体

昭和57年6月7日　市指定

指宿市西方久保にある木造聖観音立像三体は、それぞれ造られた時期が異なっています。右端のものは、平安時代の後半期に造られた作品といわれ、薩摩半島南部で最古とされます。像の高さは、70cmあります。中央のものは、室町時代に造られた作品といわれています。像の高さは、57cmです。左端のものは、江戸時代に造られた作品といわれています。像の高さは31.5cmです。

11.水迫遺跡

水迫遺跡は、指宿市のほぼ中央、標高126mの尾根上にあり、平成5年に農道整備計画に伴う分布調査を行い、遺跡があることが分かりました。平成11年の発掘調査により約1万5千年前の竪穴建物跡と道跡、さらに炉跡が発見されました。後期旧石器時代の集落の様子がこれほど具体的にわかる遺跡は日本で初めての事例で、1万5千年前の人々の暮らしぶりを今に伝える貴重な遺跡です。

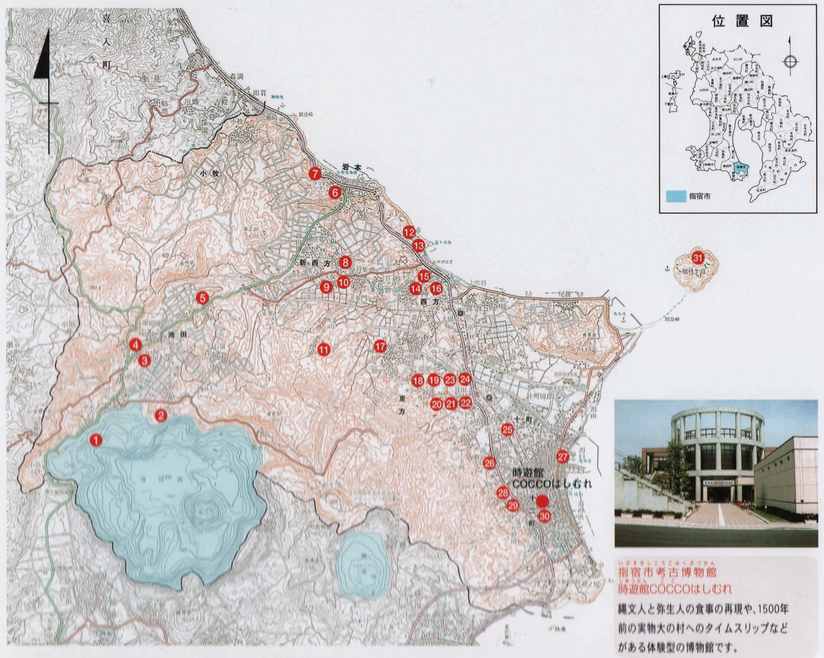
12.松尾城（指宿城）跡

昭和46年3月20日　市指定

指宿市西方外城市字城ケ崎にある松尾城は、鎌倉時代から、江戸時代初期までの約400年間、山城、海城の両方の性格を持つ城でした。防御のための空堀や本丸跡などが現在も残っており古城からの眺望はすばらしいものがあります。

13.指宿捍海隄記および捍海隄

指宿市西方宮ヶ浜の海岸に、北西から南東にのびる三日月形の防波堤があります。指宿小学校庭に現存している指宿捍海隄記には、この防波堤建設のいきさつが詳しく記されています。天保4年（西暦1833年）第27代薩摩藩主島津斉興が長さ230m、高さ5mの防波堤を築かせました。



指宿市考古博物館 時遊館COCCOはしむれ

縄文人と弥生人の食事の再現や、1500年前の実物大の村へのタイムスリップなどがある体験型の博物館です。

14.長勝院快伝銘五輪塔

昭和57年7月6日　市指定

この五輪塔は、指宿市西方宮ヶ浜にあります。この五輪塔のある場所には、弘安元年（西暦1278年）に長松院という名前の寺が建てられ、島津義弘が息子家久の戦いの勝利を祈って、慶長14年（西暦1609年）に長勝院と名前を変えたといわれています。

15.長勝院跡方柱板碑

昭和57年7月6日　市指定

この方柱板碑は、指宿市西方宮ヶ浜の長勝院跡と思われる場所にあります。天文14年（西暦1545年）に建立されたもので、この碑文にも「湯豊宿」の文字が書かれています。

16.湊川橋

昭和46年3月20日　市指定

湊川橋は、指宿市西方宮ヶ浜にあります。橋の長さは、19.2mで、幅は3.68mです。橋は、石をていねいに加工し、それをアーチ状に組み合わせて造られています。この橋は第27代薩摩藩主島津斉興の家老であった調所笑左衛門広郷が、肥後の石工、岩永三五郎に造らせたものと言い伝えられています。橋のアーチには、天保15年（西暦1844年）の銘があります。

17.上西園のモイドンなど民俗神

昭和51年3月8日　市指定

上西園のモイドンは指宿市東方道上にあります。旧暦11月3日にモイコ（森講）とよばれるお祭りが行われています。このモイドンの依代はアコウの木で直径2m余りあります。

18.島津斉彬公掘井碑新旧二基

島津斉彬公掘井碑新旧二基は、指宿市東方木之下にあります。安政5年（西暦1858年）に、島津斉彬は二月田に湯治に出かけ指宿の大干ばつを巡視し、将来の干ばつに備えて、東郷吉左衛門らに97の井戸を掘らせました。翌年、井戸を掘ったことを記念して掘井碑は建てられました。その後、碑文が読みづらくなったため、息子の東郷平八郎が昭和12年に新しく碑を建てました。

19.揖宿神社前、田の神依代ムクノキ

昭和51年3月8日　市指定

揖宿神社前の田の神はムクノキを神体としています。これは樹木に田の神が宿ると伝えられている珍しい事例で、石像出現前の原初的形態を残す貴重なものです。昭和28年頃まで揖宿神社では、このムクノキの下でお田植え祭りが行われていました。

20.揖宿神社　本殿・舞殿・拝殿・勅使殿

平成4年3月2日　市指定

揖宿神社は、新宮サーと称され、指宿の総鎮守として人々に崇敬されています。祭神は大日霊貴命と八神が祭られています。社殿は、本殿・舞殿・拝殿・勅使殿が一直線に並び、左右には東長庁と西長庁が配されています。現在の社殿は、弘化4年（西暦1847年）に第27代薩摩藩主の島津斉興が建造したものです。

23.湯権現

昭和46年3月20日　市指定

湯権現は、指宿西方二月田にあります。権現とは、仏が日本の神に姿を変えて現れることです。湯権現という名前は、温泉のさまざまな効きめが神仏の力によるものであるという信仰の表れと考えられます。最初、長井ノ湯付近に湯権現を建てましたが、天保2年（西暦1831年）に島津家の温泉別荘といっしょに二月田に移されたといわれています。

26.方柱板碑「湯豊宿」

昭和46年3月20日　市指定

指宿市十町南迫田の光明禅寺境内に「薩州湯豊宿郡……」と刻まれた板碑があります。天文12年（西暦1543年）に建立された当時は、「指宿」を「湯豊宿」と書き表わしていたことがわかります。

29.木造千手観音坐像

昭和47年2月1日　市指定

木造千手観音坐像は、指宿市十二町小田の大円寺跡と思われる場所に奉られています。江戸時代の終り頃から明治時代の初めにかけて廃仏毀釈と呼ばれる仏教の弾圧が全国的にありました。しかし、この観音像は、当時の村の青年達に持ち出され、隠していたため、破壊からまぬがれて、現在まで大切に保管されています。

21.揖宿神社能面

昭和34年6月10日　県指定

日本の古典芸能である「能」や「狂言」は、もともと中国大陸から伝わった「散楽」などの音楽舞踊が日本の中で変化していったものです。室町時代に、父である観阿弥の遺訓をもとに、息子の世阿弥が、「花伝書」という書物にまとめ、この芸能を完成させました。揖宿神社の能面には、室町時代の作品と考えられるものが三面あり、面にはそれぞれ「尉面」、「姫面」、「狂言面」と名前がついています。神社では「能」や「狂言」などの芸能を奉納することがありますが、これらの面はそうした祭りの時に使われたものと思われます。日本で「能」や「狂言」が完成されたころの能面は、数も少なく貴重なものです。

24.殿様湯跡

昭和46年3月20日　市指定

殿様湯跡は、指宿市西方二月田にある島津家の温泉別荘跡です。島津氏は、元禄16年（西暦1703年）まで摺ヶ浜に別荘を構え、寛政9年（西暦1797年）には長井ノ湯（現在の弥次ヶ湯の東）に別荘を移したと伝えられています。現在残っている殿様湯跡は、天保2年（西暦1831年）に第27代薩摩藩主の島津斉興によって二月田に移されたものです。

27.濱崎太平次墓・頌徳碑

濱崎太平次は文化11年（西暦1814年）指宿村湊の谷という商家に生まれました。太平次は薩摩藩の後盾もあって事業を拡大するとともに薩摩藩の財政の立て直しに貢献したといわれています。その後、現在の鹿児島市に転居し、そこを拠点として那覇、長崎、大阪、新潟、佐渡、函館などに支店を置きました。この事業の拡大で第8代太平次は巨万の富を築いたといわれていますが、文久3年（西暦1863年）に大阪で病にたおれました。現在、墓は湊公園内に、頌徳碑は指宿市湊の稲荷神社にあります。

30.国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡

大正13年国指定・平成8年、平成12年追加指定

遺跡は、指宿市十二町下里にあります。大正7・8年に京都帝国大学教授濱田耕作博士らの調査によって、火山灰をはさんで上から弥生土器、下から縄文土器が出土することが判明し、その新旧関係を層位学的に初めて明らかにしました。このことから大正13年に国指定史跡に指定されました。その後、周辺の都市区画整理事業に伴い、貞観16年（西暦874年）の開聞岳の火山灰で被覆された集落が発見されるなど、国内でも貴重な遺跡としての評価を受けました。平成8年と平成12年には追加指定を受けています。

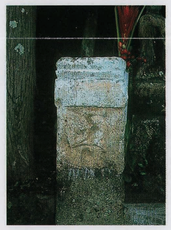
22.揖宿神社境内のクスノキ株

昭和47年2月1日　市指定

指宿市東方宮にある揖宿神社には、大きな樹木が群生しています。特に、楠の大樹が八株も群生している状態は、鹿児島県下でも珍しく、推定樹齢は700年以上といわれています。

25.弥次ヶ湯古墳

指宿市十町の弥次ヶ湯団地の建替え事業に伴う平成10年の発掘調査により、古墳が発見されました。この古墳は、円墳で墳丘の直径は約17.5m、周溝の幅は約2mでした。周溝の中からは5~6世紀代の土器が発見されています。墳丘の上半は、後世の撹乱によって消失していましたが、下半部分は7世紀後半の開聞岳の火山灰によって埋没した状態で発見されました。日本最南端の古墳となります。



28.方柱四方梵字（供養塔）

昭和51年3月8日　市指定

方柱四方梵字は、指宿市十二町中小路字原田にあります。山川石（溶結凝灰岩）を加工して造られた石塔です。東面に「摩利支天」、西面に「阿弥陀如来」、南面に「阿閦如来」、北面に「勢至菩薩」の梵字が、筆太刷目の刻調で刻まれています。

31.知林ヶ島

田良浜の沖合800メートルに浮かぶ周囲3Kmの無人島です。干潮時になると世界的にも珍しい砂の道（砂州）が現れ、状況によっては陸続きになり、歩いて渡ることができます。島内には、約210種類ほど植物があり、その中には県内でも珍しい植物も含まれています。

指宿市教育委員会
〒891-0497 鹿児島県指宿市十町2424番地
TEL 0993-23-5100